

- 1月**
- ◆大槻・片平町地内にネクスコ東日本と共同で整備を進めてきた、「郡山中央スマートインターチェンジ」が開通
  - ◆市長はじめとする国際交流団がハンガリーを訪問し、東京2020オリンピック競技大会事前キャンプ実施に関する覚書を締結
  - ◆平成30年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)スピードスケート競技大会が郡山スケート場で開催
- 2月**
- ◆県内の大学で出会った4人で結成された男性ボーカルグループ「GReeeN」に郡山市フロンティア大使の委嘱状を交付
  - ◆本市とホームタウンパートナー協定を締結しているデンソーエアリービーズのホーム戦が初開催
  - ◆福島ファイヤーボンズが宝来屋郡山総合体育館で初の郡山市サポートマッチを開催
  - ◆災害時の安定的な電力の供給と環境負荷の低減を図るため、東北電力(株)と太陽光発電や蓄電池等の有効活用に向けた協定を締結
  - ◆国立研究開発法人国立環境研究所と環境と経済が調和した持続可能で気候変動に適応した暮らしと産業の実現を目指すための連携協定を締結
- 3月**
- ◆宝来屋郡山総合体育館、敷地西側のバリアフリー化と障がい者駐車スペースの増設、大型バス駐車スペース確保などロータリー拡張工事が完了
  - ◆子どもが健やかに成長し、自立できる社会の実現を目指して、県ユニセフ協会と包括連携協定を締結
  - ◆災害発生時に避難所で避難生活を送ることが困難な高齢者や障がい者などを、福祉施設で受け入れる体制を整備するため、健寿会、星総合病院、あさかホスピタルと福祉避難所の設置運営に関する協定を締結
  - ◆2月に本市フロンティア大使に就任したGReeeNが、大使就任後初のイベントとして海老根伝統手漉和紙で製作した灯ろうをともす「復興の灯火プロジェクト」を開催
  - ◆生きることの包括的な支援の推進のため「郡山市いのち支える行動計画」を策定
- 4月**
- ◆本市の産業・観光における課題解決や持続的発展に向けた方向性を示す「知の結節点」こおりやま産業持続・発展ビジョン「郡山市観光戦略ビジョン」を策定
  - ◆「鯉」や「水泳」を通じて交流を深めてきたハンガリーのホストタウンに登録
  - ◆イオンタウン(株)・マックスバリュ南東北(株)・イオンリテール(株)東北カンパニーと、大規模自然災害などの発生時、施設や駐車場などの一時的な避難場所としての利用や食料品・日用品などの提供など、防災活動協力に関する協定を締結
  - ◆製缶業を営む日本エンジニアリング(株)と西部第一工業団地の売買契約を締結
  - ◆環境分野全体に専門的知見と人材を保有する県地球温暖化防止活動推進センターと連携協力に関する協定を締結
  - ◆御館小、宮城小、河内小地域子ども教室開所
  - ◆富田小児童クラブ開所
- 5月**
- ◆阿武隈川上流総合水防演習を開催
  - ◆福島工業高等専門学校とSDGsの推進をはじめ、人材育成や相互資源を活用した地域社会の発展に向けた包括連携協定を締結
  - ◆24時間誰でも利用できる「オープン型宅配便ロッカー」を市役所本庁舎前に設置
  - ◆気候変動の影響による被害を回避・軽減するための気候変動適応策等を推進する「こおりやま広域圏気候変動適応等推進研究会」を設置
- 6月**
- ◆福島大学とSDGsの推進をはじめ、人材育成や相互資源を活用した地域社会の発展に向けた包括連携協定を締結
  - ◆こおりやま広域圏内の中小企業や小規模企業にむけた情報発信を行う、産業政策課LINE公式アカウントの運用開始
  - ◆麓山調整池(雨水貯留施設)の暫定供用開始
- 7月**
- ◆県内で初めて「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選定され、総理官邸で選定証授与式が開催される
  - ◆清水建設(株)と産業技術総合研究所が共同開発した水素エネルギー系統の実証運用を総合地方卸売市場で開始
- 8月**
- ◆地質調査や測量などを行う新協地水(株)と西部第一工業団地の売買契約を締結
  - ◆福島テレビ専属気象予報士の斎藤恭紀さんが郡山市気象防災アドバイザーに就任
  - ◆本市と県南鯉養殖漁業協同組合、NTT東日本(株)が鯉養殖産業の持続的な発展に向けてIoTを導入した実証実験を開始
  - ◆学校向けICT教育サービスおよび危機の検証などを行うテストフィールド(実証実験施設)として活用するため、(株)ウェブレッジと旧大田小の賃貸借契約を締結
- 9月**
- ◆昭和63年から整備を進めてきた笹川大善寺線(笹川大橋)開通
  - ◆ドイツ・エッセン市のトーマス・クーフェン市長と関係者が来郡
  - ◆市教育研修センターが旧三町目小に移転し、ICT教育の拠点としての機能を備えた研修施設として新たにスタート
- 10月**
- ◆日本列島に上陸した令和元年東日本台風(台風19号)による豪雨や暴風のため、阿武隈川・逢瀬川・谷田川・笹原川で越水や溢水、谷田川・藤田川で堤防が決壊するなど、過去最大級となる浸水被害が発生
  - ◆幼児教育の無償化スタート
  - ◆保土谷化学工業(株)、福島交通(株)郡山支社と災害発生時におけるバス車両退避に関する協定を締結
  - ◆郡山中央図書館がセルフ貸出機の増設・読書アルバム・電子書籍貸出サービスなどを導入し再オープン
  - ◆全日本合唱コンクール全国大会において、郡山五中・郡山高校が合唱日本一に輝く
  - ◆(公)福島県保健衛生協会と生活習慣病予防に向けた取組に関する包括連携協定を締結
- 11月**
- ◆平成28年から整備を進めてきた郡山消防署富久山分署が開署
  - ◆ハンガリーとイスラエルの水泳チームが、郡山しんきん開成山プールなどで、東京2020オリンピック競技大会へ向けてトレーニングキャンプを実施
  - ◆令和元年東日本台風(台風19号)で被災した富久山3Rセンターの全設備機器の消毒や点検を実施、同センターのリサイクルプラザが再稼働
  - ◆「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」宣言
- 12月**
- ◆令和元年東日本台風(台風19号)で被災した小泉小・赤木小・永盛小の修繕、復旧作業が終了し、授業を再開
  - ◆富久山クリーンセンターの焼却施設が再稼働し、各スポーツ広場などに仮置きしていた災害ごみの処理を開始
  - ◆マイナンバーカードを利用して各種証明書などを取得できる「証明書自動交付機」の利用開始
  - ◆(株)川金ビジネスマネジメント、製造業を営む(株)北成工業と西部第一工業団地の売買契約を締結
  - ◆要介護認定事務において、AIの言語処理技術を活用する実証実験を行うため、(株)NTTデータ東北と協定を締結

## 持続可能なまちづくり

郡山市は、将来起こり得るさまざまな課題の解決に取り組み、市民の皆様の「想い」や「願い」を結び、誰もが安心して暮らせる持続可能なまちづくりの実現を目指しています。



### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

#### SDGsとは?

「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称です。2015年に国連サミットにおいて全会一致で採択された、2016年から2030年までの世界共通の目標です。



健康づくりのためのスポーツ・レクリエーション啓発事業など

地域こども教室事業、生涯学習支援事業など

連携中枢都市圏推進事業、日本遺産魅力発信推進事業など

## こおりやま広域圏

本市および近隣市町村が連携・協力し、地域課題の解決を図る「こおりやま広域連携中枢都市圏」。公共施設の相互利用などさまざまな取り組みが進められています。



『出前講座の開催』



クールチョイス



『体を冷やす夏野菜、夏がくれた優しさ』  
『晴れたら外で過ごす自然を生かした遊び』

## 雨水貯留施設整備

これまでの計画降雨を超過する局所的な短時間集中豪雨いわゆるゲリラ豪雨などによる浸水被害の軽減を図るため、雨水を一時的に貯留し、雨が止んだ後に排水する施設である麓山調整池が暫定供用したほか、図景・赤木・小原田・石塚貯留管の整備を進めています。



『麓山調整池』

### 公共施設

■図書館の相互利用がスタート  
■あさかの学園大学も広域圏から入学

### しごと・地域振興

■スマールスタート支援事業を広域に展開  
■地域イノベーションラボこおりやま

### 人的交流

■若い力で広域圏の魅力を発信  
■広域的に教職員の資質向上を図る

## 郡山消防署 富久山分署が開署

2016年から整備を進めてきた郡山消防署富久山分署が、11月13日に開署しました。式典では、消防署員による消防訓練が披露され、消防団員、地域の皆さんとともに開署を祝いました。



## 郡山中央スマートインターチェンジ供用開始



大槻・片平町地内に整備を進めてきた郡山中央スマートインターチェンジが、1月13日に開通しました。



『うねめ太鼓で開通を盛大にお祝い』



『記念すべき1台目が通過!』

## 学び育む子どもたちの未来



保育所にタブレット端末など、ICTを導入し、子育て環境の整備を図るとともに、放課後児童クラブの開所など、子育て支援の充実を図ります。



### ■教育研修センターが移転

市教育研修センターが旧三町目小学校に移転し、新たにスタートしました。これを記念し、開所式を行ったほか、小・中学生を対象に、ロボット教室も開催しました。今後は、こおりやま広域圏内教職員の研修および、ICT教育の演習・研究施設として活用します。

- 保育所ICT化推進事業
- 新学習指導要領を見据えた取組

## 令和元年東日本台風(台風19号)の被害

10月12・13日に日本列島に上陸した令和元年東日本台風(台風19号)による豪雨や暴風は、本市に過去最大級となる浸水被害を及ぼしました。



(提供元:(株)スペースワン)



『陥没した道路』

『土砂が流れ込んだ水田』

『富久山クリーンセンターの浸水被害』

2019(平成31年/令和元年)

## DATA

### 令和元年東日本台風(台風19号)の災害状況

降水量	最高水位	主な被害状況	避難状況
1都:11県大雨特別警報	阿武隈川 10.0m(10月13日1時00分) (観測地点阿久津)	死者 全壊 大規模半壊	6名 1,414世帯 2,053世帯
中田ふれあい 総雨量 284.5mm	逢瀬川 越水	半壊	5,010世帯 6,671世帯
芳賀公民館 総雨量 281.5mm	谷田川 越水	床上浸水 床下浸水	890世帯 379件
谷田川小学校 総雨量 274.5mm	谷田川 6.4m(10月13日2時00分) (観測地点上行合)	道路被害 河川決壊	4箇所 15箇所
田母神 総雨量 270.0mm	多田野 決壊	橋りょう	永盛、赤木、 小泉が浸水
多田野 総雨量 230.0mm	湖南福良 総雨量 221.5mm	小学校	富久山浸水 機能停止
湖南福良 総雨量 221.5mm	富久山 総雨量 218.0mm	クリーンセンター	約361.9億円
※福島地方気象台 郡山観測所調べ	藤田川	工業・商業 農作物	約25.2億円
		被害総額	約387.1億円

## 「 笹川大善寺線( 笹川大橋 )」 2車線で全線供用開始



## 行政経営の効率化など

新たな社会問題に対応するため、ICTを活用したデジタル市役所の実現や行財政改革の推進、官民連携などの取り組みを一層推進し、より高いパフォーマンスの発揮に努めます。



- 連携中枢都市圏構想の推進
- ICTを活用した働き方改革

『市役所西庁舎入口ではペッパーが  
庁舎を案内』



水泳協会覚書

『本市の国際交流団がハンガリーを訪問』 / 2019年1月  
1月29日～2月3日に、品川市長をはじめとする国際交流団がハンガリーを訪問しました。本市特産の鯉を通した交流や、水泳ナショナルチームが本市で合宿を行うなど、縁が深いハンガリー。  
交流団は、ハンガリー水泳協会を訪れ、東京2020オリンピック・パラリンピック大会事前キャンプに関する覚書を締結しました。



『ハンガリーのホストタウンに登録』 / 2019年4月



『ハンガリーとイスラエルの水泳チームがトレーニングキャンプ』 / 2019年11月



『復興の灯火プロジェクト』 / 2019年3月

3月10日・11日、2月に本市のフロンティア大使に就任したGReeeNと本市がコラボしたイベントを開催しました。GReeeNや芳賀小学校の児童などが、海老根伝統手漉和紙に復興への願いや夢を描きました。思いを乗せた光は会場をやさしく照らし、訪れた皆さんは、灯ろうに込められた願いに思いをはせていました。



『大相撲郡山場所』 / 2019年8月  
8月に宝来屋郡山総合体育館にて「大相撲 郡山場所」が開催されました。

# あの日の記憶 vol.9

震災からの10年の歩みについて寄せられた記憶をご紹介

## 地震の話を聞いて思ったこと (10代/男性)

僕は、当時2歳だったので、お母さんから東日本大震災の話を聞いて、地震の怖さを知りました。それから、僕も物を無駄にしないことや、募金などをして、できることをしています。僕もいつか子供ができたら、この地震の話をあげたいです。

## 揺れが起きたら (20代/男性)

学校からの帰り道に地面が大きく揺れた。揺れが収まるといつも通りに通る場所には大きな看板が落ちていた。あと少し地震が来るのが遅かったら大きな看板の下敷きになっていたかもしれないと思うと、ぞっとする。このことから、揺れが起きた時、第一に身の安全を守ることが、その時にしっかり周りや頭上など注意することが大切だということに気づかされた。

## 支え (20代/女性)

被災した時は高校で英語の授業を受けていました。1時間にも感じるような長い間強い揺れに耐えながら、建物が倒れるのではという不安と恐怖の中目に入ったのは、耐震強化の為に教室に後付けされた剥き出しの金属柱でした。揺れがおさまると、雪の降る校庭で震えながら親の迎えを待ちました。強い恐怖、不安の中少しずつ状況を和らげたいという気持ちは皆一緒のようで、私含め、無理をしてふざけて笑っていたように感じます。今は郡山を離れ東京で暮らしていますが、今でも帰省の際母校を通りかかった時はつい無意識に、私たちの命を守ってくれたあの金属柱に目が行きます。防災としては最低限の部分ではあります、あの柱は、建物の崩壊を防ぐだけでなく、恐怖の中、するような思いで周りを見渡していた私の目に入るだけで、少しでも安心をくれました。

## 当日の家の中 (20代/男性)

東日本大震災の時は小学4年生だった。地震が起きた14時46分は学校の教室で帰りの会をやっている途中だった。先生の話を聞いているといきなり大きな揺れに襲われ、円形状に揺れた。揺れが収まると校庭へ避難した。金曜日だったので荷物をたくさん抱えて避難した記憶がある。校庭で待機している最中も余震が続き、さらには3月にもかかわらず大粒の雪が降ってきてとても異様な天気だったことを覚えている。あの震災から10年が経った現在自分は、小学校の教師になるために東京の大学に通っている。卒業したら福島に帰ってくるつもりである。そして、自分が経験したことを子どもたちに伝えていきたいと考えている。自分も教育を通して復興に携わっていけたらと思う。